

第1回 新庁舎等整備プロジェクト基本計画検討専門者会議 議事要旨

1 日 時 令和8年6月10日（水） 9時30分～11時30分

2 場 所 兵庫県庁第2号館5階 庁議室

3 出席者

（1）検討会構成員 ※敬称略

氏 名	職名等	出欠
赤澤 宏樹	兵庫県立大学 自然・環境科学研究科 教授	出席
上村 敏之	関西学院大学経済学部 教授	出席
嘉名 光市	大阪公立大学大学院工学研究科 教授	出席
田中 栄治	神戸女子大学 家政学部 家政学科 教授	出席
紅谷 昇平	兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 教授	出席
津島 秀郎	神戸市 都市局 都心再整備本部 局長 (事業推進担当)	代理出席 畑田 典子 都心再整備本部都心再整備部部長 (都心整備担当)
大豊 康臣	兵庫県議会 副議長	出席

（2）事務局

有田理事、福山総務部長、波多野職員局長兼県庁舎整備プロジェクト室参事、
松井県庁舎整備プロジェクト室長、津志新庁舎企画課長、仁木新庁舎企画課参事 ほか

4 主な意見

※ 開会あいさつ、メンバー紹介、資料説明等については省略するとともに、発言内容は一部要約しています。

● 基本計画の構成について

- ・ 全体的に庁舎整備に限定した内容になっている。広場整備や民間整備の考え方も必要。庁舎整備とモトキタ整備が呼応しながら庁舎周辺が出来上がり、機能的に連携していく必要があるが、今の目次構成ではこれが見えない。

→次回、にぎわい機能も含め、全体の工程を示したい。

目次構成のうち、「敷地のゾーニング等」の部分のにぎわい機能の誘致についても記載していく。（事務局）

- ・ もう少し広域の視点が基本計画には必要。周辺のまちの特徴や三宮から兵庫あたりの神戸の都市全体の人の動きや空間・エリアとの関係性の中で、モトキタエリアのどこにどんな機能が来るべきかを考えるべきだ。
- ・ 初代の三宮駅があった元町エリアは、かつて神戸の都市の中心であった時期がある。

モトキタエリアがこういった地域なのかという歴史的背景を踏まえた上で、どうなっていくかというビジョンを整理すべき。

→「将来像とコンセプト」の中で歴史的背景等も含めて整理する。(事務局)

- ・基本構想で掲げた「静かなにぎわい」の解像度を上げる必要がある。
 - ・社会実験の有無やオープンスペースの余地、道路の歩行者空間化の可能性などを整理していくべき。広域的なエリア整備について、緑の視点からも検討した上で、周辺エリアとの繋がり方を整理することで事業者が参入しやすくなるのではないかな。
- より広域的な視点についても今後考慮し検討していく。(事務局)

● ゾーニングとフロア構成について

- ・ゾーニングとボリュームは景観上一番大切な部分。神戸市は眺望型の景観（特定の場所から山や海、建築物やまちなみを眺めたときに視覚で捉えられる景観）を大切にしており、視点場（眺望景観を眺める場所や空間）からの見え方について景観シミュレーション等で検討すべき。
- ・周辺景観として、元町駅から県公館西側道路を通過して北上する動線が大切。整備エリア内でいくつか重要な視点場を整理し、現在の眺望と将来的な眺望がどう変わるのか検討すべき。
- ・フロア構成によるが、景観的には建物高さは低い方が良い。
- ・コンパクトな庁舎を目指すため、現庁舎と計画案について具体的な数値での比較が必要。
→構想時点で整備面積を整理している。詳細は今後検討する。(事務局)
- ・連絡通路は災害時でも利用できるようにすべき。
- ・敷地の中央にあたる最も良い場所が駐車場となる。交流機能等、何か一工夫があると良い。
- ・駐車場や民間提案エリア部分は、災害時の利用も想定して考えると良い。
→駐車場は敷地北側に寄せて整備を想定。駐車場屋上は緑化する等を検討中。(事務局)
- ・他庁舎の事例で、ワンフロアすべてを各部局の会議室とし、災害時は受援スペースとして使う整理がされている。このようなイメージが良い。
- ・人口減の中で、現状より執務フロアを削減する方向で検討することは妥当。
- ・ワーキングや職員PTの意見をしっかり反映していくことが職員のエンゲージメント向上に繋がり重要。
→新庁舎完成後に県政の中核を担う若手職員に、将来を見据えた議論をしていただいている。若手職員の意見を最大限反映したい。(事務局)
- ・自然災害以外の災害も考慮する必要がある。サイバーセキュリティ等には慎重な配慮が必要。
- ・セキュリティ強化と交流機能について、県の目指す姿を整理しゾーニングとしてま

とめることが大切。

→セキュリティと交流は相反する部分があるが、整理していく。セキュリティ強化は職員からも要望が大きい部分。（事務局）

- ・民間提案エリアや広場が複数あるが、これらがバラバラに使われることは望ましくない。新庁舎を含め一体となった整理が必要。
 - ・自動車動線は資料のとおり山手幹線側に作ることになると考えられる。極力動線を統一し、歩道の切り下げ（車動線の出入口）を減らせないか検討いただきたい。
 - ・広場空間や民間提案エリアは、災害時も見据えた自動車動線のオペレーションが必要。
 - ・連絡通路は単なる通路としてではなく、打合せや来庁者の休憩等、広場的に使えると非常に良い。
 - ・連絡通路は南北を見渡せるため景観上凄く良い眺望点・視点場になる。こうした活かし方も検討いただきたい。
 - ・ゾーニング図について、周辺エリアも含めて、建物が建つ部分とオープンスペースの関係がどうなっているのかという視点も必要。
 - ・現1号館前の広場は道路との高低差が大きくアクセスしづらい。
 - ・フロア構成図について、高低差を考慮した視点が必要。東西・南北ともに高低差がある敷地で建物とオープンスペースをどうつなげるのか検討が必要。
- オープンスペースへ南側道路からスムーズにアクセスできるよう検討している。フロア構成は模式的に示したものである。高低差を含めて確認できるよう整理したい。（事務局）
- ・建物と広場がゾーニングやパースでハッキリと分かれているが、これを重ねる考え方もある。機能の重ね方について、ゾーニングで県の考え方を示すと良い。
 - ・広場について、新庁舎棟の南側だけでなく、民間施設、新議会棟、3号館の南側にも展開し、長田楠日尾線と一体となった使い方を考えても良い。この場合、現2号館前の緑は伐採し、もう少し薄くしても良いのでは。

● 周辺敷地の導入機能

- ・民間参入の意欲向上とフィージビリティ（実現可能性や採算性）を高めてもらうことが重要。そのためには、民間の自由度は確保した上で、県として望む姿・考え方を示すことが大切。
 - ・民間提案施設をすべてバラバラに整備・運営すると、複数のオープンスペースや建物低層部の県民交流機能との相乗効果が期待できない。一体的にエリアマネジメントする、一の事業者によって整備する等の方法がある。庁舎整備についても、「O：Operation（管理運営）」の観点が抜けている。
- 整備手法のうち、DB方式（Design-Build：設計施工一括発注）にOを付ける、DBO方式もある。今後の事業者ヒアリングで、手法含め、フィージビリティ等に

についても深掘りしていく。(事務局)

- ・エリア全体をどのようなコンセプトをもって整備していくのか、その方針によって民間事業者の意欲等にも関わってくるだろう。

● 事業の進め方、事業手法

- ・DB 方式か DBO 方式かという議論はあるが、一括発注が良いと感じる。県の財政がかなり苦しくなっている中で、工期の短縮は非常に重要。一括発注により早期完成を目指すことが良いと思う。
- ・大きな方向性として、基本設計までは県が実施すると良い。
- ・実施設計から DB 方式の発注を行う場合、基本設計の段階で実施設計の入り口レベルまで作り込み、DB 方式の発注資料を作ることが重要。
→物価高騰を考慮し、工期短縮は最重要項目と考えている。

事業者ヒアリング等で検討を進め、DB 方式が良いということになれば、来年度の基本設計の中で仕様書を作り込めるよう考えていく。(事務局)

- ・事業の進め方について、敷地ごとに解体により更地になる期間や、エリア内で工事ヤードを確保する中で、社会実験等ができるようなオープンスペースがあるのか、全体整備の中で整理しておく必要がある。
- ・このようなエリア整備では、施設が完成してからにぎわいづくりをスタートさせても上手くいかない。完成までにどう準備しておくのかが極めて重要。
- ・オープンスペースの設計は単なる外構としてではなく、建物と同じようにゾーニングから考えていくことが大切。
→今年の基本計画を行い、来年度基本設計を行う。オープンスペースについては支援事業者の協力を得ながら計画していくが、植栽計画等の踏み込んだ検討はまだできていない。(事務局)
- ・既存樹木の取り扱いはどうのようにされるのか。
→現在、並行して実施している樹木調査の結果や工事用の作業ヤード等を踏まえ、健全な樹木は可能な限り残せるよう検討していく。(事務局)
⇒既存樹木の使い方によって民間の検討できる範囲が変わる。ゾーニングにも影響があるので、しっかりとした検討が必要。

● その他

- ・広域のエリアで議論をするためには、県単独では難しく、神戸市との連携も必要になるのではないか。
→公共空間については神戸市が権限を持っている部分が多い。市の実施する都心整備とは連携しており、県庁周辺の公共空間の整備等は、引き続き連携を図りながら計画に反映していきたい。(事務局)
⇒エリアの具体的なコンセプトは神戸市の計画にも関わる部分であり、しっかりと

連携することが大切。

⇒元町駅周辺の公共空間リニューアルプランについては、県市で連携している。駅周辺の整備においても広域の視点が必要だという指摘がある。

道路空間は交通量調査やシミュレーションを踏まえて在り方を検討すべき。

⇒長田楠日尾線の歩行者空間化等、道路の扱いは神戸市にも検討いただきたい。

- ・若手職員の意見を採り入れることは非常に重要。専門的な部分はサポートしつつ、可能な限り整備に反映していくべき。
- ・新議会棟は新議会棟整備協議会で議論されているが、交流機能など、外部に開かれた議会になると良い。

⇒協議会ではＩＣＴ化含め、議会の在り方を検討している。一般に開かれた議会の観点から委員会室等を一般開放し、多目的に利用できるように、といった意見もある。

- ・県公館はにぎわいづくりにおいて重要な役割を持つ。イメージパースのようにオープンな空間とするのか、現状のままとするかでエリア全体に大きく影響する。
- ・県公館のにぎわい実証実験は重要。五国のＰＲというテーマもあるため、実証実験でビジネス的な検証を行い、上手く行きそうなら五国のＰＲにも関連させていくと良いのでは。
- ・県公館敷地で施設整備のみ先行すると、エリア全体が見えない中で整備した施設が残る。長期利用するとしても、段階的な整備を認める、前半は社会実験として行う等の手法を検討いただきたい。ニューヨークのブライアントパークの仮設的なにぎわい創出の事例が参考になる。

→統一性や面的な整備の観点からも検討し、段階的な整備や暫定利用方法、期間等について仕組みを考え直す。（事務局）

- ・次回に向けた検討について、資料の項目では論点が細かすぎる。基本計画の項目すべてをこの場で議論するのではなく、議論すべきものと報告事項としてまとめるべきものを整理いただきたい。